

第 264 回昭和の森 自然観察会

里山の暮らし（お正月飾りを作ろう）

佐藤一枝（千葉市）

日時；12月8日（木）12：40～15：00 天気；晴れ

参加者；43名（大人29名 子ども14名）、指導員11名 計54名

担当指導員；奥村 昭 小林義和 佐藤一枝

風もなく暖かい日でした。広場のテーブルに注連縄、ミニ門松、藁カメ、来年は午年なので、藁で作った馬も展示し参加者を待つ。お天気もよく出かけやすかったせいでしょ、思いのほか参加者が多く、始まるまで展示物を見ながら会話を楽しんだ。藁は埃が出るので、希望者にはマスクをつけてもらった。

今回は、ミニ門松・注連縄飾り（輪飾り）・藁カメ の3班に別れてそれぞれのものを作ります。藁束に櫛の代わりに指を入れて“すく”ところから始まります。誰も嫌がらずに実施しています。こうやるんですか？ と楽しんでいるお父さんもいます。ちょっと濡らして、少し打ち、縄をないます。

祭事や仏事は左縄を使う慣わしを話す。そして縊りの違いを知り、ない方を説明し、実演しました。右でなえないのに左縄と四苦八苦していましたが…、何とか使うだけは、なうことができました。注連縄作りに使う藁は、水で少し濡らすだけです。小槌で打たず、手になじませて作るという、我が家の作り方でつくっていただきました。乾燥しているの、藁はすぐ乾いてしまいます、何度か濡らしながら頑張って作りました。

ミニ門松はマダケ3本をそぎの形に切って、モウソウチクの中に立て、マツを添えます。竹を切るのに時間がかかるので、ある程度まで準備し、各自で竹鋸をひいて作りました。注連縄飾りやミニ門松はナンテン・マンリョウの赤い実を飾り、その上稲穂も飾って、綺麗にでき、嬉しそうに持って帰りました。

- * 今回は赤白の水引をかけるので、山岸指導員に水引の花結び（蝶結びとも）の結び方を教えていただいたり、結んでいただいたりして、一段と品格が備わりました。
- * 昭和の森のタケを所長さんにお問い合わせし、いただきました。また指導員にはマツの枝、緑米などを提供していただきました。
- * 残った藁などは、後日、押し切りして、細かくし、ビオトープの田んぼに入れました。



藁カメ